

YIC 京都ビューティ専門学校学校関係者評価委員会議事録

会議名	YIC 京都ビューティ専門学校第 1 回学校関係者評価委員会（ハイブリッド開催）
日時	日時：2025 年 6 月 16 日（月）13:30～15:20
場所	場所：YIC 京都ビューティ専門学校 1 号館 3 階 131 教室
参加委員	京都府美容業生活衛生同業組合教育委員西原弘幸様 株式会社ガモウ関西京都第一フルサポート部部長久保智哉様(オンライン) ソティスジャパン株式会社 チーフ京井 さくら様 株式会社ロイヤルホテルリーガロイヤルホテル大阪プライダル部部長三木千恵子様 事務局：佐々木校長、山根副校長（兼教務課長）、澤総合支援室課長、教務課長補佐田澤先生 アザバー：美容科学科長小林先生、ビューティスペシャリスト科学科長福本先生、プライダル科学科長國定先生、国際ホテル・ビジネス科 科長村瀬先生、ビューティスペシャリスト科奥谷先生、YIC 京都ペット総合専門学校教務課長北村先生、鳥井（内部監査・IR 戦略室） 欠席：一般社団法人 JMA 常務理事芦田貴子様
定員数確認、委員長の選出	第 7 条第 2 項のとり 4 名出席、1 名欠席で過半数以上で本委員会は成立する。議長は学校関係者評価委員会は学校側が事務局となるため、委員の中から西原委員を指名し、委員長に全員から承認された。
記録者	内部監査・IR 戦略室：佐藤
配布資料	委員名簿、2024 年度自己点検評価報告書、2025 年度教育課程、シラバス抜粋他
進行	
1) 校長挨拶	お忙しい中、本委員会にご参集いただき誠にありがとうございます。 ご承知の通り、専門学校においては学校関係者評価委員会が義務付けられています。また、議題にもある自己点検評価も各学校に義務付けられており、皆様に情報を公開し、忌憚のないご意見を頂戴することで、教育課程編成に活かしてまいります。 来年 4 月より私立学校法が施行され、専修学校は単位制に移行します。これは法律で定められており、これにより自己点検や教育課程の内容が、学校が「認定されるか否か」の判断基準となります。年 4 月からの専門学校の大体制移行に伴い、自己点検や教育課程の内容がより一層重視されること、将来的に第三者評価が義務化される可能性が高いことが共有されました。皆様方のご意見いただきながら学校運営に努めてまいります。
3) 関係者評価委員紹介	各委員挨拶
2) 教職員紹介	各教職員挨拶
4) 配布資料等確認	資料読み上げ（委員の名簿、インターンシップの資料、基礎カリサーチの実施資料 3 学科、2022 年自己点検評価結果・カリキュラム・カリキュラムマップ）
5) 定員数確認および委員長の選出	第 7 条第 2 項のとり 8 名中 6 名欠席で過半数満たし本委員会は成立する。議長についてはハイブリッド開催となるため、山根推薦、全員の賛同により承認された。
6) 今年度の状況	1. 2025 年度の学校状況について 2024 年度 学校の状況説明（事務局より） - 学生募集状況（2021 年度～2025 年度）： - 美容科：2021 年度の 84 名から一旦減少後、2024・2025 年度は回復傾向。 - ビューティスペシャリスト科：2024 年度に定員超え（53 名）を達成後、若干の減少があったが、2023 年度以降は回復傾向。 - プライダル科：2025 年度は 9 名と大きく減少。 - 国際ホテルビジネス科：2024 年度に新設され 35 名が入学。2025 年度は定員を大幅に超える 63 名の志願（実入学 35 名）。 - 校長補足として、18 歳人口が減少する中で、志願者数の回復傾向は市場シェアの拡大を示唆しており、このまま推移すれば定員充足に近づくと思われています。 - 修学支援新制度の対象校であり続けるため、定員充足率の維持が重要であると認識されています。 - 男女比率（2021 年度～2025 年度）： - 美容科：2023 年度に男性が減少したものの、2025 年度には男性の割合が微増。 - ビューティスペシャリスト科・プライダル科：学科の特性上、ほぼ女性が占めています。

	◦ 国際ホテルビジネス科：初年度は男性が多かったが、2025 年度は男女ほぼ同数。 ● 高校偏差ランク（入学者の学力傾向）： ◦ 美容科・ビューティスペシャリスト科：平均学力が高いとされる層（E・F ランク）の割合が減少し、G・H ランク（偏差値 44 以下）の割合が増加傾向にある。 ◦ ブライダルホテル科：他学科に比べ、G ランク（偏差値 40-44）の学生が突出して多い傾向にある。 ● 退学者の状況（2024 年度）： ◦ 美容科 2 年生、ビューティ科 2 年生、ブライダル科 2 年生の退学率は 0%。 ◦ 1 年生では、美容科 6 名、ビューティスペシャリスト科 5 名、ブライダル科 6 名、国際ホテルビジネス科 2 名が退学。 ◦ 2023 年度と比較して、美容科 1 年生とブライダルホテル科 1 年生の退学率が上昇。 ◦ 主な退学理由： 学生生活不適応や修学意欲低下が最も多く、学力不振は比較的少ない。 ◦ ブライダル科の退学率 35.3%（6 名）について、三木委員から「非常に多い」との懸念が示された。 ■ 事務局は、学生の状況察知の遅れと情報共有不足を主な原因として挙げ、今後は早期の情報把握と学科全体での対応強化に努めることを表明。 ■ 校長は、入学前の「こんなはずじゃなかった」という環境のミスマッチが退学の大きな要因であるとし、オープンキャンパスや保護者説明会を通じた事前の情報提供を強化する方針を示した。			
	2025 年度の学校状況について 質疑応答			
	評価項目	項目番号	質問（委員）	回答（事務局）
	5 学生支援	5-1	三木 ブライダル科の退学率 35%という数字は非常に高く、問題があるように感じられると指摘	山根 学生らのモニタリングと情報共有が不十分 入学後のフォロー等の遅れが原因 佐々木 入学してから思っていたのと違ったなどは OC の説明や保護者説明など学校の教育についてしっかりと告知し、ギャップをなくす
			三木 異常値ではないのか	佐々木 在籍数が少ないので 1 人のあたりの % が大きい 文科省は入学当時の人数との対比が求められる。
2. 2024 年度の自己点検評価結果について（教務課長飛田）	2. 2024 年度の自己点検評価結果について（教務課長飛田） 自己点検評価結果（各大項目の詳細） 評価は 4 段階（4:評価適切、3:やや適切、2:不適切、1:非常に不適切）で行われています。事務局は、これまでの形式的な評価（やっていれば 4）ではなく、「中身を問う」厳しい評価基準を導入していると説明しました。これは、学校として改善意欲を示すための評価であると補足 資料「2024 年度 YIC 京都ビューティ専門学校自己点検・評価結果」参考に以下の項目の達成および取り組み状況と課題・改善策について説明された。 1. 2024 年度の自己点検評価結果について（山根） ・「2024 年度 YIC 京都ビューティ専門学校自己点検・評価結果」に基づき、以下の説明があった。 資料「2024 年度 YIC 京都ビューティ専門学校自己点検・評価結果」参考に以下の項目の達成および取り組み状況と課題・改善策について説明された。全体の項目報告 ① 1. 教育理念・目標 ② 2. 学校運営 ③ 6. 教育環境 ④ 7. 学生の受入れ募集 ⑤ 8. 教育の内部保証システム ⑥ 9. 財務 ⑦ 10. 社会貢献・地域貢献 ⑧ 11. 国際交流 事前資料の項目の中で昨年も厳しいご意見たくさんいただきそのご意見等もお踏まえて、点検しております。まだ改善できるところとかできてないところがございますが、ご意見をいただきたい。			

2. 2024 年度の自己点検評価結果について（教務課長飛田）

評価項目	項目番号	課題と今後の改善
1. 教育理念・目標	1-2	「社会経済ニーズを踏まえた学校の将来構想」は「やや適切3」。 - 理由：業界動向のリアルタイムな把握が不十分。卒業生アンケートが卒業後1年目のみで、3年後・5年後の定着率が把握できていない点が大きな課題とされています。これは「手回しができていない」と言い訳せずに取り組むべき点として認識されています。
2. 学校運営	2-7, 2-8 2-9	「教員の業務経験や能力に応じた組織的・計画的な研修実施」は「2」 - 理由：研修は実施しているものの、個々の教員の能力に応じた計画性が不足しており、文書化された根拠が不十分。 「教職員と非常勤講師等との定期的な情報交換」は「1」。 - 理由：情報交換は行われているが、年に一度の懇談会だけでは組織として定期的とは言えず、教員個人の努力に依存している点が課題。 - 西原委員からは、美容業界の現状として、若手人材の早期退職や営業時間外の練習への参加意欲の低下が指摘され、仕事への理解を深めることの重要性が語られました。一方で、自身のサロンでは体験実習や海外からの依頼を通して、美容の仕事の魅力を伝えている事例や、産休・育休取得を推奨していることも共有されました。
3. 教育活動	3-5 3-12	「シラバス・コマシラバスの作成と活用」は「1」。 - 理由：シラバスの改訂が進行中であり、作成後の活用や改善のための体制が未確立。全教職員・学生への周知も不十分。 - 現在、授業報告と連携した効率的なコマシラバス作成に取り組んでおり、より詳細な内容に改訂中であることが説明されました。校長は、これには3～6年かかるとの見通しを示しました。 「授業アンケートとアセスメント結果のレビュー」は「1」。 - 理由：アンケートは実施しているものの、時期のずれにより即時的なフィードバックができていない。非常勤講師の授業での徹底が課題。 「学習教材の検討会議と著作権遵守の徹底」は「1」。 - 理由：検討は行われているが、議事録などのエビデンスが不十分。特に非常勤講師を含む全教職員への著作権規則の周知徹底が課題とされています。
4. 学習成果	4-5	「卒業生・在校生の社会的な活躍・評価の把握」は「2」。 - 理由：卒業後1年の調査は義務で実施しているが、組織的に全ての就職先企業に対して定期的に行っていない。教育内容の改善のため、より詳細な把握が求められています。 「入学者の能力アセスメント」は「3」。 - 理由：基礎学力試験や入学前教育プログラムは実施しているが、その結果のアセスメントが不十分。 2025年度からは、基礎学力試験後に在学中のフォローを行う体制に切り替える試みがなされています。
5. 学生支援	5-2	「留学生への相談体制整備」は評価が記載漏れ。 2025年度には、新しく「留学生生活環境整備室」を設置し、留学生支援体制を強化する予定。 - 海外からの学生の増加傾向について情報交換が行われました。 - ホテル業界では、積極的に外国籍の従業員を採用しており、中にはシークレットショッパーとして表彰されるような活躍事例も報告されました。 - 日軽ホテル大阪では、入社者の約3割が外国籍であり、メンターメンティ制度や宗教・文化的な配慮（お祈り場所の確保など）を行っていることが共有されました。 - 学校側も国際ホテルビジネス科で留学生が増加しており、美容科にも中国籍の学生がいるなど、国際色が豊かになっていることが認識されました。
5. 学生支援	5-9 5-12	6. 教育環境: - 主に設備に関する項目で、おおむね整備はされているが、学生が授業外でPCを借りる際のルールが未整備であることが課題。 - AIの活用について検討が進んでいます。 - 美容分野では、AIによるヘアスタイルシミュレーション（過去に試みがあったが時期尚早だった）が、現代であれば面白い活用ができる可能性。 - ブライダル業界では、AIを活用した業務改善が進んでおり、特に打ち合わせ内容の録音・自動文字起こし・表作成による業務時間短縮や、顧客との「言った言わない」のトラブル回避に期待が寄せられています。
6. 教育環境		特になし ↓ 学生の受け入れ募集については昨年もご意見をたくさんいただき、冒頭話があったように入学者が増えてき退学者が増えてるというこれで、経営が成り立

		つかというご意見がありました、それに向けて特に学生募集ではロールプレイングをしっかりとやっているか、週1回ぐらいでは潰れますねというような厳しい指摘を受けて、この3月の、春休みのオープンキャンパスから色々取り組みをしており、以前は、ベテラン教員がオープニングであるとか、高校生や保護者向けプレゼンをしておりましたが、現在は若い教員が担当し、学校の魅力など自分の言葉で話すことでクロージングの際にトークに活かせるんじゃないかと取り組んでいる。	
7. 学生の受入れ募集	8-7	◦ 全体的に「評価適切4」。学生募集は適正に行われているものの、定員は充足していない点が課題。 ◦ 「学力不足や障害に関する特別なニーズの特定」は「2」。 ▪ 理由：様々なケースに個別対応はしているが、あらゆる障害を事前に全て把握・特定することはできていない。	
8. 教育の内部保証システム	8-1	「内部監査報告書や改善計画の策定・検証」は「1」。 ▪ この項目では「1」の評価が多くついていることを説明した。 「内部監査報告書」や「評価体制」、「改善計画策定」に関する項目（8-1-2, 8-1-3, 8-2-1, 8-2-2）：具体的な文書として、ガントチャートのような計画が作成できていないため「1」と評価した。 毎年行われる学校関係者評価委員会と教育課程編成委員会で課題と改善策は話し合っているが、それを計画として文書化し、その結果を検証する仕組みが不十分である。 他校では議事録をもって「4」と評価している場合が多いが、本校ではより詳細な文書化と検証が必要であると考えていると述べた	
9. 財務		◦ 全ての項目で「4」（問題なし）と評価されました。	
10. 社会貢献・地域貢献		◦ 「学生のボランティア活動支援」は「3」。 ▪ 理由：授業内での活動（スチューデントサロン、リアルウェディング、オープンキャンパス、ボランティア授業）は行っているものの、授業外での海外ボランティア活動支援までは手が回っていない。	
11. 国際交流		特になし 国際交流については当法人の日本語学校に非常にたくさんの留学生を受け入れております。 「派遣について戦略を持って行っているか」の項目で「3」と評価した。 ◦ 留学生の受け入れはしているが、海外への学生派遣は行っておらず、項目とのずれがあるため。 ◦ 「留学生の学習生活指導等について学内に適切な体制が整備されているか（11-1-3）」の項目は、2025年度に設置した留学環境整備室の稼働により、来年度は「4」になることを期待していると述べた。	
3. 2024年度の指摘事項への対応と2025年度の継続的な取り組み			
		● 昨年度の西原委員からの提言「切れない絆のセミナー」や、三木委員からの提言「年度・学年・学科を超えた仕掛け作り」「メンター・メンティ制度」の継続的な実施。 ● 退学率上昇への対策として、「人の行動変容は感情に起因する」という考えに基づき、学生が学校を好きになるような取り組みを継続する方針。 ● シラバス・コマシラバスについては、2024年度の研修に続き、2025年度も各科目の内容確認を進めていく	
4. 奨学金制度の利用状況			
		● 修学支援新制度（国からの授業料補助・給付型奨学金）と返還義務のある奨学金を合わせると、全学生の約40%が利用しています。 ● この割合は年々増加傾向にあり、国の年収基準緩和や多子世帯への支給上限なしといった制度拡充が影響しています。 ● 奨学金制度は、国が財政的な課題を抱えつつも、今後も拡充される可能性が高いと認識されています。	
2. 2024年度の課題と重点項目について			
評価項目	項目番号	質問（委員）	回答（事務局）

	2. 学校運営		「1（不適切）」という評価が存在することについて、学校としての姿勢は問われないのですか	「1」の評価は、形式的な適合ではなく、内部改善への強い意欲を示すためのものであると再度説明されました。形としては実施していても、中身が不十分であると判断した場合にあえて厳しく評価し、改善を促す狙いがある
	2. 学校運営		西原 私どもも評価しているが、今月の終わりにロームシアターで開催するが、学生ばかりでプロのエントリーが過去最低、4年選手がエントリーしない状況を見ると仕事と家庭のバランスを考えているが、どうしても年齢的に子育て世代と相まっているなど大会の運営ができない状況が見えている 中学生向けの体験実習や、海外からの視察受け入れ（ロスアンゼルス美容集団 60 名への指導）など、外部連携活動にも積極的に取り組んでいる 仕事への向き合い方を常に考え伝えている 美容の仕事は手に職をつけるものであり、スキル向上が必須学生にその本質を納得させることが最も重要である	
	3. 教育活動		京井 教科書が古いと感じたことはないが、書き込み用に同じ教科書がもう 1 冊あれば良いと思ったことがある	
	4. 学習成果		京井 シラバスについては学生時代に授業開始前	佐々木 シラバスは科目の概要、コマシラバスは 90 分授業ごとの概要であり、これらが整備されていないと授業の目標設定が共有できません。現在は、授業内容や到達目標を教員と学生が共有できるよう、コマシラバスの内容を細かく記述する作業を進めています（現在の「1」評価は、PDCA サイクルにおける改善途中の段階を示しています）。教科書選定やシラバス作成は教育内容の目標管理のために重要視しており、今後 3～5 年かけて整備を推進する方針。常勤・非常勤問わず全教員での徹底が必要。
	4. 学習成果		三木 自身のホテルでは現在海外の学生はいないが、大阪の系列ホテルでは台湾からの留学生が 1 名おり、シークレットショッパーとして表彰されるほど活躍している事例があると報告した。顧客としても海外からの客が増加傾向にある。 自身のホテルでは、昨年の 4 月入社以降、ウェディングよりもホテル部門で積極的に海外籍の社員を採用しており、昨今入社の 120 名中、約 30 名が外国人であると説明した。外国人従業員専門の相談窓口は特になく、人事部が全て対応している。メンターメンティ制度（入社 1,2 年目のスタッフに 3,4 年目の他部署の先輩がついて定期的に相談に乗る制度）があり、部署内では言えないことも相談できる環境を整えている。メンターメ	国際ホテルビジネス科では定員がほぼ充足しており、今年度は美容科にも中国人留学生がいるなど、国際色が豊かになってきているため、文化の違いによる問題も発生していると認識している

		ンティ制度は出身国を意識せず運用されている。最近は、お祈り場所の確保など、宗教や文化に配慮した環境整備に関する問題も出てきており、人事部がケースバイケースで対応している	
4. 学習成果		西原 美容室ではまだ少ないが、京都でも徐々にそうした話は聞くようになっていっていると述べました。美容師資格取得の特例申請など、課題も指摘された	山根 東京では採用された事案があるよう特例申請ケースについて 外国人留学生に対する特例: 日本の美容学校を卒業した外国人留学生が、美容師免許を取得した場合、一定の要件を満たせば、美容師として就労するための在留資格が最大5年間認められる場合があります。これは、日本の美容技術や文化を世界に広めるためとして認められている
5 学生支援		久保 美容サロンでの留学生の採用はない	山根 「卒業生、在校生の社会的な活躍および評価を把握しているか(4-4-1)」の項目で「2」と評価した。卒業後1年の調査は義務付けられており、合同企業説明会等でアンケートは実施しているが、それ以上の活躍状況(3年後、5年後など)を組織的に定期的に把握できていないため、課題である
5 学生支援		西原委員 過去にゲーム業界の大手企業が同様の美容シミュレーションシステムを開発したが、時代が早すぎたため成功しなかった経緯がある。しかし、現代であれば楽しめる可能性が高い	※サロンでアプリでお客様カルテの運用など運用実績はあるのではないかと
5 学生支援		三木 ブライダル業界でも、結婚式の打ち合わせ時間短縮と業務効率化のため、AI活用が進んでいる 打ち合わせでの録音機能付きAIシステム導入を検討しており、これにより担当者が打ち合わせ中にメモを取る必要がなくなり、業務時間が劇的に減少すると期待している。さらに、このシステムは会話内容をテキスト化し、そのまま履歴に貼り付けられる形式に自動で表にしてくれる。また、「言った言わない」の顧客トラブル(例:色指定の間違い)も、AIによる録音・記録で回避できる	設備については概ね整っているが、課題として「学生が授業外でパソコンを借りて勉強したい際のノートパソコン貸し出しルールが未整備であること」を挙げた。貸し出しはしているが、明確なルールがない。 最新の器具については課題があるが(6-1-3を「3」評価)、授業に必要なものは揃っている。 個人的には、AIを活用したシミュレーションツール(例:美容でのカット・カラーシミュレーション)を授業に取り入れたいと考えていると述べた
5 学生支援		京井 ソティスではまだ	
5 学生支援		西原 自身の美容室でも、ドローンを使用した前撮りサービスを行っており、3名の担当者が互いに協力している	
7. 学生の受入れ募集	4-5	卒業生の企業評価調査の実施	早期に実施案を検討する
3. 2024年度の自己点検への取り組みに対するご意見等 対象分野			
4. 学習成果	項目番号	西原委員 奨学金制度の利用状況について伺いたい。	〈山根〉 国の修学支援新制度(授業料免除・給付)と、学生が借りる奨学金(返還義務あり)を合わせて、約40%の学生が

			利用しており、年々増加傾向にあると説明した。 。制度の拡充（年収上限の緩和、多子世帯への上限なし給付など）も利用増加に影響していると述べた。特にペット総合専門学校では昨年度利用者が跳ね上がった
	4. 学習成果	4-4	佐々木 日本学生支援機構による給付・貸与、修学支援による無償化など、国や都道府県による支援が今後も増える可能性があると補足した。特に大阪では大学教育の無償化、東京都では高校以下への支援も進んでいる一方、京都府は現時点では同様の支援がない
4. 今後の予定	今後の予定、学校関係者評価委員会は年1回実施のため、2025年度は今回で終了になります。学校運営に関することでご意見等ございましたら、いつでもご連絡ください。会議を開催する必要がある場合はご連絡いたします。 次年度については暫定で決めており、2026年度学校関係者評価委員会は2026年6月第3月曜日、13時半から15時で開催を予定しております。 6月の第3月曜日開催を基本にしておりますので、また、時期が決まりましたら、学校関係には、ご連絡させていただきますので、ご協力のほどよろしくお願いいたします		

以上